

「パーソナル・メイン・バンク」 をめざして進化を続けています。

プロミス株式会社(以下、プロミスと略す)は、身近で便利な金融サービスの展開に努め、銀行・信販会社とのCD・ATM提携、コンビニでの24時間返済受付、電話で融資の可否を答える「はじめてコール」、そして2000年10月には消費者金融業界で初めて、一定の条件に基づき利息を還元する「キャッシュバックサービス」を導入するなど、お客様のさまざまなニーズに応えています。さらに同社では、21世紀における企業ビジョン「プロミスビジョン」を掲げ、金融のプロとしてお客様一人ひとりの財務を的確にサポートする「パーソナル・メイン・バンク」となることを目標に躍進を続けています。

経営のスピード化のために 「財經システム」の再構築を計画。

プロミスでは、多様なニーズや時代の変化を先取りしたサービスの開発に取り組むほか、激変するビジネス環境に対応するため、スピード経営に重点を置いています。その一環として、社内の財務情報と経理情報を処理する、ホスト上の「財經システム」をWeb技術を活用して再構築しています。これにより、ユーザー・インターフェースが3270エミュレーター画面からWebブラウザにかわります。IT推進部 企画・開発担当部長 加曾利 勝氏はそのメリットについて次のように述べています。「財經システムの再構築は、決算処理を早くしたい、経営情報を早く把握したい、という経営層の強い要求を具体化したものです。従来は決算処理に伴う入力作業が本社に集中しており、スピード化にも限界がありました。そこで情報が発生するところで入力を行ってもらうことにしたのですが、操作に慣れている人ばかりではないので、入力をしやすくする必要があります。Webブラウザにすれば、GUI画面が提供でき、サブウィンドウで操作ガイドを表示することも可能です。エンド・ユーザーの利便性向上とともに、より正確で迅速な決算処理の実現をめざしました」

S/390を基盤にWebSphereを 活用してオープン環境へ。

新しい財經システムは、その安定性を評価して長年使用してきたS/390の資源を活かし、OS/390®の標準機能でUNIX®機能を提供するUNIXシステム・サービス(USS)とWebSphereを利用して構築されています。目的ごとに存在するサーバーの数をこれ以上増やさずに済むようにとの狙いもあり、拡張性とパフォーマンスに優れたS/390とWebSphereが選定されました。フロント・エンドの開発には、WebSphereファミリーのVisualAge® for Java™やWebSphere Studioが利用され、クライアントからの要求をコントロールするJavaサーブレットと、サーブレットから出力された内容を埋め込み動的にHTMLを生成するJSP™(JavaServer Pages™)技術を採用し、画面開発の生産性が従来より格段にアップしたといえます。



IT推進部 企画・開発担当部長
加曾利 勝氏

e-TPパッケージを機能確認と プロトタイピングに利用。

プロミスでは、S/390とMVS™に関しては長い使用歴がありましたが、USSとWebSphereを使用したWebアプリケーションの構築は未知の世界でした。そこでまず、Web化の環境設定の体験が無料のできるe-TP(トランザクション・プロセッシング)パッケージを利用して「S/390環境でのJavaサーブレットとWebサーバーの機能確認」と「プロトタイプWebサーバーの構築」を行うことにしました。IT推進部 主任 奥村 誠氏は次のように語ります。「限られた時間のなかで、過去に経験したことのないシステムを作らなければならなかったため、迅速にWeb化の試行ができるe-TPパッケージを採用しました。我々にとってはCICS® Transaction GatewayやOS/390 USSなど未経験のソフトウェアを早く試行できたのが良かった。また、e-TPパッケージに含まれているサンプル・サーブレットがプロトタイプの作成に非常に役立ちました」

IBM® server
zSeries™
e-business
— e-TPパッケージ活用例 —

プロミス株式会社 様

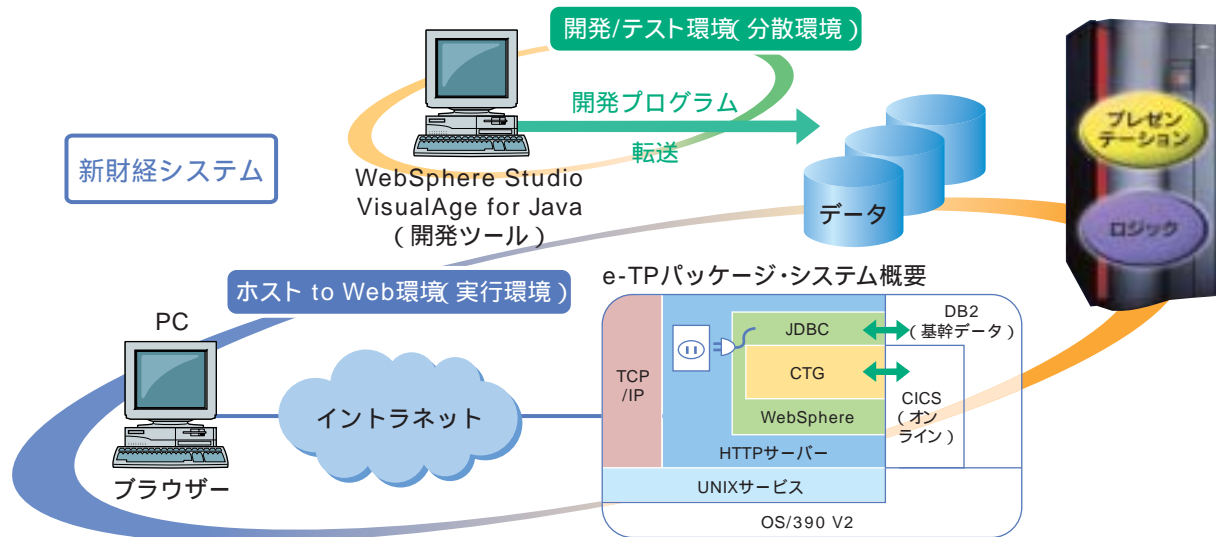
“e-TPパッケージ”をWebサーバーの
確認とプロトタイピングに活用。
迅速なシステム構築に貢献。

プロミス株式会社ホームページ
< <http://www.promise.co.jp/> >

「パーソナル・メイン・バンク」へ
「財經システム」の再構築を計画
S/390®とWebSphere®を活用
e-TPパッケージで機能確認

端末数の削減にも貢献
次世代のビジネスに備える

e-TPパッケージ・プロトタイプ・システム概要



ユーザー4,000人をサポート。
端末数の削減にも貢献。

Web技術を取り込んだ新財經システムは、本社、支社、営業店を含めて4,000人のユーザーが対象となる予定です。プロミスでは現在、アプリケーションごとに専用端末があり、管理コスト削減の面からも、エンド・ユーザーのインターフェースをWebブラウザーにすることで端末数を減らしたいと考えています。新財經システムはその第一歩となります。

適用業務
新財經システム

ソフトウェア

OS/390、WebSphere、CICS Transaction Gateway、DB2 Universal Database™、JDBC™ Driver

ハードウェア

S/390並列エンタープライズ・サーバー(9672-R36)

Web技術のノウハウを蓄積し、
次世代のビジネスに備える。

堅牢なS/390をベースに財經システムの再構築を進めるプロミス。第一の目的は社内業務の効率化ですが、次のビジネスを見据えての意味もあるといえます。「例えば、お客様にご自宅の端末からプロミスのS/390にアクセスしてもらってお取り引きいただく。他企業とパートナーシップを築き互いのシステムを連携させる。そうしたときのために備えてWeb化のノウハウを社内に蓄積しておく必要があると考えています」(加曾利氏)
プロミスでは、卓越した信頼性を発揮するS/390の強みを活かしながら、時代の変化に柔軟に対応できるようにシステムを整備することにより、今後のビジネスの可能性がさらに広がっています。



高スケーラビリティ、アプリケーションへの柔軟な対応、
64ビット・アーキテクチャーのエンタープライズ・サーバー
IBM eServer zSeries

IBM eServer zSeries関連製品の詳細情報については、
IBMホームページ <http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/zseries> をご利用ください。
お問い合わせは、IBMビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員、または
ダイヤルIBM (☎ 0120-04-1992) へ。
受付時間：月～金 9:00～18:00 (祝日、12/30～1/3を除く)
携帯電話等でおかけのお客様は下記の電話番号をご利用ください。
ダイヤルIBM 044-221-1522
この場合、通話料金はお客様のご負担となります。

IBM、CICS、DB2 Universal Database、e-businessロゴ、server、MVS、OS/390、S/390、VisualAge、WebSphere、zSeriesは、IBM Corporationの商標。
JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴはSun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または登録商標。
UNIXは、The Open Groupがライセンスしている米国およびその他の国における登録商標。
他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12
09-01 Printed in Japan

このカタログに使用されている製品の写真は、出荷時のものと一部異なる場合があります。仕様は事前の予告なしに変更することがあります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。



G 5 8 8 - 2 1 7 8 - 0 0